

【指導の重点】自ら学び考えながら、課題に主体的に取り組む子供を育てる。

※「問題解決力」の育成。

教科	学習の現状と課題	目標	具体的な授業改善 (手だて)
国語	教育同人社ワークテスト B基準70%~94% 読解 A...33% B...61% C...6% 【平均89%】 聞く A...100% 【平均100%】 言語事項 A...61% B...28% C...11% 【91%】 問題文の読み方や問題の解き方につまずきがある。 拗音、促音、長音の表記の仕方に課題がある。	平均正答率95%以上 促音、拗音、長音を正しく表記できる児童94% 1学期末漢字テスト正答率100%の児童89%	登場人物の行動や気持ちにサイドラインを引く活動を通して、叙述を正確に捉えられるようにする。 多層指導モデルMIMの指導法を活用し、促音、拗音、長音を理解しやすくする。 週に1回程度小テストを行い、拗音、促音、長音の定着や漢字やカタカナの習熟の確認を行い、つまずきのある児童には個別指導をする。
教科	学習の現状と課題	目標	具体的な授業改善 (手だて)
算数	教育同人社ワークテスト B基準70%~94% 知識・技能 A...50% B...50% 思考・判断・表現 A...39% B...61% 【平均93%】 求差の問題の解答方法につまずきがある。 2つの長さを比べる問題につまずきがある。	ワークテスト平均正答率95%(A) 3分間で繰り上がり、繰り下がりのある加法、減法の計算100問解ける児童83%	授業の始めの3分間程度計算カードに継続的に取り組む。 具体物、半具体物を積極的に用たり、数えたりする活動を設定し、実感を伴った理解を促す。 「子どもの数学的な見方・考え方が働く算数授業」を各単元で実施し、児童の意欲を喚起し数学的な見方・考え方を伸ばし、学習の定着を図る。